

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 蓮田市立蓮田中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒349-0113 埼玉県蓮田市大字閨戸147-1
E-mail j-hasu.hasuda@nifty.com
Website http://hasucyu.g.dgdg.jp/
幼児児童生徒数 男子 225名 女子 213名 合計 438名
幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、「自主・自立」を学校理念として、ESDを次世代の人づくりと捉え、ESDの実践を通して「生きる力」の育成を目標とした。

具体的には、知・徳・体のバランスの取れた生徒の育成を柱に、①確かな学力の育成に係わる活動、②豊かな心の育成に係わる教育、③健やかな体の育成に係わる学習、④進路指導・キャリア教育の推進に係わる取組を行った。

① 確かな学力の育成に係わる活動

主体的な学習や協働的な学習を取り入れた授業を展開するために、グループ学習や課題解決的な学習など、教科ごとに単元の学習内容に応じて、指導方法を工夫した。基礎的、基本的な知識の定着とともに、思考力や表現力、判断力の育成を行った。また、総合的な学習の時間では、個々の生徒が自分の課題をもって環境問題や国際理解に関わる学習に取り組んだ。家庭学習の取組の充実を通して、自ら進んで学ぶ態度や意欲の育成を図った。

② 豊かな心の育成に係わる教育

道徳授業の充実と共に、「道徳たより」の発行や道徳コーナーの設置、「心

が動いた言葉」及び「人権標語」を掲示し、普段の生活の中で生徒の目に留まるようにした。また、「あいさつ日本一」を目指す取組として、あいさつ運動を生徒主体で登校時に実施し、生徒間で自然にあいさつすることを習慣化させる取組を行った。さらに、校内のあいさつ励行に留まらず、地域住民とのあいさつが自然と行えるように生徒自身が取組むことができた。その他、全校朝会における校長講話や学校たより、学年たより、学級たより等々を通じて、模範となる生徒の行動を取り上げるなどして、本校の生徒としての誇りと自信を持てるようにした。上記以外にも、生徒の「自主・自立」のために、生徒主体で清掃活動の向上を図る取組、生徒会主催による地域の清掃ボランティアの実施、蓮田市の清掃活動への参加協力などを実施した。

③ 健やかな体の育成に係わる学習

体育的行事及び部活動を通じた体力向上のため、大運動会や校内駅伝大会を実施し、集団力や持久力の向上を図った。また、部活動を通して基礎体力を高めるとともに、技術を向上できるように取り組んだ。

そのほか、健康増進等に関する取組として、歯磨きコンクールにより健康な歯の維持を推進、学校薬剤師を講師に迎えて「正しい薬の飲み方」について学習する機会を設けるなどした。

④ 進路指導・キャリア教育の推進に係わる学習

蓮田・白岡地方ユネスコ協会の協力で、元JICA東京国際研修センター所長、大阪学院大学講師の石崎光夫様に「発展途上国の人づくり支援30余年を顧みて」という題目で講演をいただいた。一人一人の生徒が、自分自身の将来について考える機会となった。また、埼玉県進路指導・キャリア教育研究会の委嘱を受けて一年間の授業研究を重ね、研究委嘱発表を行った。



①の写真（グループ学習）



②の写真（朝のあいさつ運動）



③の写真（体育朝会）



④の写真
（進路・キャリア講演会）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(「知・徳・体」の調和が取れた生きる力の育成)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 部活動)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

・ 彩の国の道徳

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学力の向上については各教科等の年間指導計画の中で、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のための授業計画を立てている。豊かな心の育成については、道徳教育全体計画を作成して教育活動全体で取り組む計画になっている。体力の向上は、保健体育や食育、部活動等の観点から計画が立案されている。進路指導・キャリア教育については、進路指導・キャリア教育全体計画を作成して取組を行っている。これらの計画等については、毎年度末に見直しを行っている。

前年までの活動のねらいや成果及び課題については、学校の良さ、校風を次世代へ引き継ぐための重要なデータとして扱い、計画に反映するようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学力の向上や進路指導・キャリア教育の推進については、研修推進委員会を中心に取組の方向性や組織的な取組の計画を立て、学校全体で校内研修を行うなどして取組を行っている。また、豊かな心の育成については、生徒指導委員会、教育相談部会、生徒会等の担当が互いに連携を取りながら組織的に取組んでいる。体力の向上については、保健体育科を中心に取組んでいるが、特に体育的な行事を中心とした取組では、教職員全体での共通理解を図る時間を取りながら実施している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年度末に実施した学校評価の生徒の回答では、「互いに認め合い、助け合い、高め合えるように努力している。」、「誰に対しても、よくあいさつする。」、「健康であることの素晴らしさを知り、食生活や生活習慣を大切にしている。」、「蓮田中学校の生徒であることに誇りをもっている。」という質問に対して、いずれも90%以上の生徒が肯定的な回答をしている。そのほか平成29年度は、街中で体調を崩した子供やお年寄りに看護及び緊急連絡対応を行ったことや、普段の登下校中に地域の方にあいさつすることについて、感謝やお褒めの電話等を5件いただいた。今後はさらに知・徳・体の調和が取れた生徒を育成し、地域社会の一員として学校外でも学んだことを実践できる生徒を増やしていくことが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本校では月に1回の学校たよりを発行し、校区内自治会に配布・回覧を行っているほか、民生委員、児童委員等の方々にも学校たよりを配布している。また、市役所内の掲示板への掲示や本校ホームページの定期更新に合わせた掲載によって校内の主な活動や出来事を紹介している。ホームページには、学校たよりを補足する資料や掲載できなかった内容について取り上げ、月に2回以上の更新を行っている。

こうした取組は、卒業生である地域の方々、現在の母校の良さや校風の継承について評価を行うための判断材料となっている。そして、学校を知っていただくことで、地域の方々の母校に対する理解が深まってきてると考える。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

蓮田・白岡ユネスコ協会からは、進路指導・キャリア教育に関する講演会の講師を御紹介いただいている。そのほか、地域敬老会との交流、民生委員・児童委員との連絡会の実施、自治会との連携、校区内小学校のPTAとの交流などが行われた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

同一市内にあるユネスコスクール(蓮田中央小学校)との交流を実施した。平成29年度は、進路指導・キャリア教育の一環として小学校5年生全員を招き、本校3年生全員が小学生をリードしながら合唱をつくり上げる活動を行った。活動を通じて、中学生は小学生の姿を自分に置き換えて自身のこれまでの成長を振り返り、小学生は中学生の姿を見つめながら将来の自分を思い描く貴重な時間となった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

地域と学校はもちろんのこと、地域の方々と生徒の関係が密接になってきている。本校の生徒が、地域の方々に積極的にあいさつをしたり、街中で体調を崩した方たちを看護及び緊急連絡対応することは、地域社会の一員として重要なことであると考えている。学校で学んだことを生徒自身が生活の中で活用できることは、本校の教育の理念である「自主・自立」につながるものとする。

また、「地域の学校」という意識が高まってきており、同窓会やクラス会が活発に行われるようになってきている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度も引き続き、「知・徳・体」の調和が取れた生きる力の育成について取組を進めていく。

また本校は、平成30、31年度に埼玉県立総合教育センターが実施する調査研究の研究協力を行うことが決定している（調査研究の主題「児童生徒が主体的に取り組む環境教育」）。本年度は調査研究協力委員に指名された教員（理科）を中心に本調査研究の趣旨や方向性の確認、先行研究の情報収集、研究計画の立案を行い、平成31年度に具体的な実践と研究のまとめを行う。これまでのユネスコスクールとしての成果を踏まえつつ、今後環境教育の取組について活動の幅を広げていく予定である。